

科目名	専門総合演習 『育つ』ということについて考える ～様々な育ちの姿に学ぶ～		担当教員	大村 あかね		
			担当形態	単独		
テキスト	資料を適宜用意します。	単位数 授業形態	2単位	演習	開講時期	前期

講義概要

■到達目標

保育者として自覚的に子どもの育ちを支え、また自らもかかわりの中で育ち続ける大人となっていく為に、以下のことを目指します。

1. 多様な人の多様な育ちの姿から、「育つ」ということイメージを広げる。特に、個人の心身の発達というところから、関係性を含む言葉として捉え直し、説明することができる。
2. 「育ち」を見つめる自分の視点について、相対的に捉えることができる。
3. 自ら取り組みたい課題を見つける。

■授業の概要

保育者は、子どもの育つさまを目の当たりにする職業です。一方で、自らも人として、保育者としての育ちの過程にあり続けます。また、保護者をはじめ、子どもの身近な様々な人々の育ちに触れることもあります。でも、皆個々バラバラに育っているわけではありません。見守られ、励まされ、認められて、また、自らの存在が他者の励みになっていたり、見方によっては妨げになったりすることもあります。また、一見そうは見えないことも、育ちの一つのプロセスとして捉えることができる場合もあります。

この授業では、「育つ」とはどういうことかを幅広く理解し、「育つ」ことを見る目を広げていくために、その時々テーマにかんじて感じたこと、思ったことを話し合うことを大切にします。単に知識を深める為でなく、それを自分なりにかみ砕いて理解し、自分の経験と結びつけていくためです。

そして最終的に一人ひとりが、自分の課題を見いだすことを目指します。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション この授業のねらいについて
- 第2回 育つとはどういうことか ～実感から語る～
- 第3回 子どもが育つということについて①理論編
- 第4回 子どもが育つということについて②エピソード編
- 第5回 親が育つということについて①理論編
- 第6回 親が育つということについて②エピソード編
- 第7回 保育者が育つということについて①理論編
- 第8回 保育者が育つということについて②エピソード編
- 第9回 関係性が育つとは①関係発達論について
- 第10回 関係性が育つとは②重度障害者が生きるということ
- 第11回 育ちを見る目を考える①育ちを見る目と援助の関係
- 第12回 育ちを見る目を考える②様々な育ちを見る目と援助の実際
- 第13回 自分はどのように育ってきたか①私についてわかることを整理する
- 第14回 自分はどのように育ってきたか②私について身近な人にきく
- 第15回 取り組みたい課題について発表しあう

■準備学習

- ・あらかじめ提示された参考資料は、読んで理解した上で臨むこと。
- ・自分が担当する回のレジュメを期限までに作ること。
- ・提示された課題に取り組み、期限までに提出すること。

■評価方法

- ・話し合いへの積極的な参加 — 30%
- ・小レポート — 20%
- ・レジュメづくり — 20%
- ・課題発見への取り組み — 30%

参考文献	随時紹介します。	特記事項	小レポート、レジュメ等は全てPCで作成すること。 【課題等のフィードバック方法】 小レポート等の提出物は、必要に応じてコメントを記入して、必ず学生に返却します。
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修	幼	
		保	